
MONSTER HUNTER ~風の章~

MHコンピ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MONSTER HUNTER ～風の章～

【コード】

N5322P

【作者名】

MHコンビ

【あらすじ】

新米のウィンドがハンターとして成長していく物語。

12/27

題名を変えておきました。

感想をユーザー登録しなくても書けるようにしました。

1/2

題名を適当に変えた。後悔はしてない。

(; 、 1) (前書き)

作者(以下(作、)) : 特にない。

感想の人(以下(感、)) : 少し黙ってる。

(感、) : 作者に代わってこのやさしい感想の人が色々説明してくれます。

(感、) : はい、こんなダメクソツタレ作者でもやっぱりM
Hの小説ですからグロいのは書きちゃうかも知れません。そう言う
のが嫌な人は即ウィンドウを閉じて頂くかPCもしくは携帯電話を
ぶん殴ってなくても構いません。

この糞作者は厨二全開なので時々変な物を書いてしまうかも知れま
せん。

その時はこの感想の人が思いっきり作者をぶん殴りますのでご安心
ください。

(; 、 作) それではお楽しみ下さい (; 、 感)

エピローグ

陸の女王、リオレイアは衰弱していた。

翼の爪も頭の牙も折れ、巨大な尻尾も切断されていた。

疲労した体を癒そうと飛び立とうとするも、水を帯びた矢が大量に降り注ぎ、

墜落して隙まみれの頭に鋭い剣が突き刺され、リオレイアは絶命した。

リオレイアの死体の前で二人のハンターが立っていた。

グレイ「これでリオレイア討伐。案外強敵だったな。」

リーフ「ああ、これでまた難しいクエストも受けれるようになるだろう。」

グレイ「これで遠くの土地へも・・・。」

***「グオオオオオオオオオオン!!!」

グレイ「!?!」

リーフ「なんだ?」

グレイ「おい、あれを見る!」

茂みの影から青白い光が浮かび上がり右手の方向に飛んで行く。

リーフ「雷光虫・・・にしては光が変だ。」

グレイ「森が騒がしくなってきたやがった・・・。とりあえず村の方にモンスター等が行ったら大混乱だ、急いでこの辺りを探索するぞ。」

リーフ「おう。」

雷光虫は一定の場所に集まりつつある。500、600メートル先の場所が特に青白く光っている。

グレイ「あそこか?」

そっと近づいて行く。

青白い光の中心点にたどり着いた。

リーフ「この木に隠れていよう。しかしなんだこれは、まるで空気が電気になったみたいだ。ビリビリしやがる。」

リーフは腰にしまっていた片手剣、【無銘】を抜く。

グレイはスポンギア？を構えた。

グレイ「!？」

そっと木の陰から覗いてみたグレイは驚きを隠せなかった。

グレイ「リーフ……。覗いてみる。お前とは6年共に戦った仲だがこんな奴相手にした事はあるか？」

リーフ「な……。なんだよコイツ……。」

目の前には異様な姿をした竜が何万匹もの雷光虫を纏っていた。

***「グオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!！」

グレイ「やばい！気付かれた！」

リーフ「グレイ、お前は村に戻って警備を固めるように報告しろ。

俺はここでこいつを食い止める。」

グレイ「……は？なに言ってるんだよ。俺も一緒に……。」

リーフ「お前がいなくなったら俺らの村は誰が守るってんだよ！俺は絶対生きて帰る、約束だ。」

グレイ「リーフ……。」

ああ、分かった。絶対生きて帰れよ。約束破ったらお前の肉はジャギイの餌にするからな！」

リーフは緑色の玉を取り出した。

リーフ「これを使って村まで戻れ。それを使えば村まで一瞬で戻れる。」

グレイ「分かった。絶対に約束守れよな。」

グレイは辺りに緑の煙を撒き散らして姿を消した……。

リーフ「それで良いんだ……。」

このクソツタレが！たった今からこのリーフ様が相手だ！かかってきやがれ！」

村に戻ったグレイが最初に見たのは全体紫の霧に包まれたミント村だった。

グレイ「どうして・・・こんな・・・。」

近くに村人が一人倒れている。グレイの顔見知りだ。

グレイは回復薬と解毒薬を飲ませる。

村人「ゲホツ！ゴホツ！・・・ああ、グレイか・・・。遅かったな・・・。」

グレイ「何があったんだ！モンスターか？」

村人「そうさ・・・。ドスフロギイ率いるフロギイの群がやってきて村をめちゃくちゃにしゃがった・・・。リーフはどこにいる？」

グレイ「リーフはまだ戻って来て無い。」

村人「そうか・・・。お前らの家族は今地下室に避難しているはずだ・・・。恐らく俺は助からないだろう・・・。グレイ、後の事は・・・頼んだ・・・ぜ・・・。」

グレイ「おい！逝くな！逝くなア！」

村人はすでに死んでいた。周りの村人も同じだった。

グレイは念のために解毒薬を飲みほしてよろよと地下室に向かっていた。

リーフ「ぐはあッ！」

リーフは必死に謎の竜と交戦していた。

リーフ「糞・・・！痺れて体が言う事をオ！」

***「グオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！」

角も爪も折れて疲弊しているモンスターは勝利の雄叫びをあげ、リーフに強烈な電撃を放った。

リーフ「すまんな・・・。グレイ・・・。俺は約束を・・・。果たせそうに無い・・・。」

リーフは電撃に飲み込まれていった。

グレイは地下室の前まで歩いてきた。途中で悪い予感がして身震い

した。

リーフを助けに行きたかったが、今は村の人を助けなければ……。
グレイ「……………！」

グレイとリーフはほぼ同時期に妻を迎え新たな家庭を作っていた。
リーフの方には子供が一人生まれていた。どちらも一人人数が違う
が幸せな生活を送っていた。

グレイ「こいつらアアアアアアアア！」

地下室の中にはフロギイ達が侵入していて、ドスフロギイが毒で死
んだ警備の村人を貪っていた。毒は地下室の奥の方からも流れてき
ている。

グレイはスポンギア？の矢を放った。

矢はフロギイ達に降り注ぎ、周りの全てのドスフロギイ含むフロギ
イをなぎ倒してゆく。

フロギイ達が息絶えたのを確かめると奥へと駆けて行った。

まずグレイの目に入ったのは村人達の死体だった。生きている者は
いないかと一人ひとり確かめていったが誰一人呼吸をしていなかっ
た。

グレイ「ちくしょおお！」

グレイは辺りの壁を思いつきり殴った。

すると壁がクルリと回って奥への階段が見えた？

グレイ「？」

グレイは階段を駆け下りていった。

階段を降り切るとそこには僅かな村人と……

その一人に抱かれたリーフの子がいた。

(; 、 1) (後書き)

(作 ; 、) : 始まりましたね、新作。俺の自作を見るがいい!

(感 ; . .) : 厨二臭えよ...。

(作 ; 、) : 何だと! なめやがって!

(感 ; . .) : ウルセーヨ、永遠に黙らすぞ。

(作 ; 、) ひいいゝ : 許して下チャイナ

(作 ; 、) (感 ; . .) : これは初っpなので変なっpり方してたらゴメンネ。

(; 、 2) (前書き)

まえおき

作者(以下(作、)) : 特にない。

感想の人(以下(感、 . .)) : 少し黙ってる。

(感、 . .) : 作者に代わってこのやさしい感想の人が色々説明してくれます。

(感、 . .) : はい、こんなダメクソツタレ作者でもやっぱりMHの小説ですからグロいのは書きちゃうかも知れません。そう言うのが嫌な人は即ウィンドウを閉じて頂くかPCもしくは携帯電話をぶん殴ってくれても構いません。

この糞作者は厨二全開なので時々変な物を書いてしまつかも知れません。

その時はこの感想の人が思いつきり作者をぶん殴りますのでご安心ください。

(; 、 作) それではお楽しみ下さい(. . . 感)

***「なんでだよお！」

ここはミント村、辺境の土地。

村と言っても僅かな農民とアイルー、家畜。それに小型モンスターが暮らしているだけである。

対大型モンスター用の武器庫兼避難所の地下室もあったが、大分昔から使われていないため泥に埋もれてしまっている。

昔はハンターが時々クエストの途中で立ち寄り準備を整えるための店や武具屋もあったがやはりこちらも地下室が使われなくなった頃から遠くの町に移ってしまったらしい。

今では一人の商人が農民たちの作った野菜を辺りの村に届けるためだけにここに残っていた。

***「駄目だ、絶対ハンターなんか許さんぞ！」

***「このケチ親父！」

親父「そんな事ばつか言つてると晩飯抜きだぞウインド」

ウインド「晩飯抜きでも朝飯抜きでも一日食わなくてもいいから許してくれよ！」

この二人はその商人の家族。

親父と言われている方が見ての通り商人。

本名グレイ・イクシード。

若い頃にこの村に越してきて、農民の娘と結婚したと言っている。

当然ウインドが生まれる前に結婚しているし、ウインドが生まれるとその娘はすぐに息を引き取ったらしい。

農民の間でも親父と言われている。

そしてこのハンターになりたいと言って駄々をこねているのがウイ

ンド。

本名ウインド・イクシード。

一か月前に15歳になった。この辺りは15歳で成人になり、ハンターになる事を許される。

しかし親父は自分の跡を継がせるつもりなのでハンターになるのは許さないつもりだった。

今回辺りの村に野菜を売って戻ってくると親父に言おうと決心していたのだが……。

***「まあいいじゃない、許してあげても」

親父「しかしねえ……。」

ウインド「おばさん！」

農民の婦人、通称おばさん。

良くイクシード親子に野菜を届けてくれる。

親父「ちょっと聞いてくれよ……。」

おばさんを少し離れた場所に連れて行って耳打ちする。

親父「わかってると思うがハンターってのは小型モンスターだけ相手にしてりゃあ何の問題も無いが、3年前のアイツみたいなのが相手だったらいくら…の子供とは言え…みたいに死んじまうよ……。」

おばさん「グレイ……。」

少し間をおいて

おばさん「でもねえ、あの子もやっぱり…の子だからハンターになりたいんだと思うわ。」

それと最近ジャギィの群れが周りの村を荒らしてるのは知ってるでしょ？あの子にアイツラを討伐させてみたらどう？」

親父「.....」

(; 、 2) (後書き)

(作、 、) : 話の位置づけなので短くした。

(感、 ・ ・) : そんなこと聞いてない。

(作、 、) (感、 ・ ・) (こんな長さのが話位続くからそんな
ところご理解お願いします)

(。・3)(前書き)

(担、・・)(…いい加減うpしろよ…。

(作、・・)(…まあ今のところ誰も見てなさげだしイイジャマイカ

ww
ww

ところで顔の文字が変わってるが何かあったのか？

(担、・・)(…詳しい事はどうでもいいからとっととウプレカス

ウィンドは朝飯を食べた後、自分の部屋の椅子に座って一人考え事をしていた。

ウィンド「あーあ、結局許して貰えなかったな〜。」
じっと机の上のリオレウスの絵を見る。

親父の無二の親友が持ってきた絵らしい。
何故か絵のハズなのに迫力を感じる。

ウィンド「こんなの狩って見たかったなあ・・・。」

ベッドの上で天井を見ているとノックが2回聞こえ部屋の扉が開いた。

ウィンド「親父〜？またあの辺りに野菜届けるのか？」

親父「いや、今週はお前は手伝わなくていい。」

ウィンド「え？どう言う事だよ。俺に店継がせたくないのか？」

親父「何ほざいてんだ。ハンターになりたいなんて言うておいて。

それよりお前3日前に辺りの村回ってた時モンスターを見ただろ。」

ウィンド「ああ、見たけど？どうしたの？」

親父「アイツラが今周りの村を困らせてる。ハンターになりたいんだったらアイツラを討伐して来い。そしたらハンターになるのを許してやってもいい。」

ウィンド「え？」

ウィンドは驚きのあまり開いた口が塞がらない。

親父「なにボケッとしてんだ。ハンターになりたいならあれ程度の鳥竜位倒せるようにならないといかんだろ。」

ウィンド「親父、早く商品しまわないと。明日は絶対嵐・・・」

親父「ごちゃごちゃ言うてねえでとつとと支度しろ！」

ウィンドは夢じゃないかと思いつ自分の頬を両手で引っ張ってみたが、痛い。夢じゃなさそうだ。

親父「武器や防具なら家の倉庫に入ってる。あれは俺の友人のだ。勝手に使って良い。それから食料と水を忘れるんじゃないぞ！」
ウィンド「うおおおおおおお！親父イイイイ！ありがとおおおお
おおー！」
親父「あんまり待たせると今日の晩飯抜きだぞ！出発は明日だ！
ゆっくり休んどけ！」
ウィンド「分かった！」

(。・。3)(後書き)

(担´・・・) : 一体何があつたのか、この進化した感想の人が説明しよう

(作´;´、´) : さつきから気になつて仕方がないんだけどwww

(。・。・) : 私が関係しておりますニヤ

(作´、´) : このアイルー誰？

(担´・・・) : 編集長だよ。

(作´;´、´) : 編集長つて。。。この小説ネット小説だし、編集と言つて俺ら以外誰も書いて無いのに？w

(。・。・) : 名前はプニだニヤ、宜しくニヤ。

(作´;´。・) : あ、宜しくお願ひします。

(。・。・) : 今回から私がこの担当を通じてうpしていきますニヤ

(作´;´、´) : 担当つて、まさかこいつ？コイツ (担´・・)

(担´・・・) : コイツつて言ったな、今。後で覚えとけよ。

(。・。・) : この人が今度から担当を担当するわけですニヤ。今変な言い方しちゃつたニヤ。やっぱ人間語は慣れんニヤ。

ゞ(。・。・)ノ` プニプニ！プニプニ！

このプニとは一体何者なのか！次回をお楽しみに！！

あれ？もう上で説明しちゃつてなくね？

(作´、´) : 肉球触つて良い？

(。・。・) : 担当ならともかくお前みたいな下等生物に触られたくないニヤ。

(作川´、´) : ……。

（ ． ． ． 4 ）（前書き）

（作、 ）：突然だけど編集の人って俺の友達モチーフにしてんの。

そしたら急に（編、 ）の方がいいって言い出したから顔変えといたよ。

性格も変わってるはず

あれ、これ何。なんで大樽g

ドゴーン

（編、 ）：仕事しろ。

（作、 ）：変わってない・・・。

ウインドは倉庫を覗いてみた。

剣と防具が並んでいる。

見ると剣の隣の箱に紙一枚と本二冊が置いてある。

“ウインド・イクシードへ

お前がこれを見ていると言う事は俺はお前にジャギイを倒したらハンターになってもいいと言った後だろう。実は野菜配りから帰ってきた後おばさんと相談してすでに決めていたんだ。

この本はハンターについての基礎知識が書かれている本だ。

この蒼い表紙の方がハンターの生活、紅い表紙の方が隣の武器のジャンル、片手剣について書かれた物だ。

俺がお前に商売のために字を教えたから多分読めるだろう。

それとこの剣と防具は俺の旧友の物だ。

防具はロックラックシリーズ、あのロックラックと言う都市の衣服だ。それなりの防御力はある。

剣の方の名前は【無銘】。なんでもロックラックにジエン・モーランと言う古龍が訪れた時にある職人と出会って、ジエン・モーランの素材を使ってその職人に作ってもらったらしい。武器の名前も職人の名前も分からなかった。この名にしたそうさ。

実際にモーランの片手剣はあるが、作って貰った時にはまだ未開発の片手だったらしい。

長くなってしまったな。必要な事ならその本に書いてあるだろう。出発前に俺に食料を受け取るように。

グレイ・イク

シードより”

ウインド「親父の奴……。」

ウインドは蒼い表紙の方の本を開いてみる。親父の言った通り何とか読めそうだ。思ったよりページ数が無い。

“ハンターの基礎知識

ようこそ、ハンターの世界へ

ここでは君達がハンターでやっていくための物を教えていくまずは装備について……。”

とこんな感じで20ページほど一気に読み切った。

親父に貰った本棚の中の本もこれ位のページ数だった様な気がする。次の本を手にとるとウインドは腰を抜かしそうになった。

どこから見てもさっきの本の十倍の厚さはある。

しかも中を開けてみるとどの本よりも字が細かく敷き詰められている。

ウインド「これ全部読まなきゃならんのか……？一体親父どんなプロの本買ったんだよ。」

目次を見てみると項目が20ある。1項目10ページぐらいはある。一番上を見てみると

“片手剣の扱い方&基礎

補足 とりあえず新人の方はここだけ読んで頂くだけで結構です。”

ウインド「それ最初に言えよ……。」

本には片手剣の振り方のコツと盾の使い方について書かれていた。

ウインドは【無銘】で素振りをいくらかした後、盾の影でアイテムを使ったり盾で空気を何度か殴ってみた。

コツを掴むまでにはもう昼が過ぎていた。

親父「何してんだ！夕飯だぞ！！」

ウインド「はい」

今日の夕飯はトウガラシを使ったスープと粥だ。

出発前の緊張なのかなかなか腹に入りそうになかったがトウガラシの辛さで食欲が促進されいつもの量は食べる事が出来た。これも親

父の心遣いだろうか。

親父「明日が出発だから今日はもう寝てる。これ位食ったらだれだつて眠くなるだろう。」

本当に親父の心遣いだった。ウィンドは良い親父を持ったなと思った。

ウィンド「それじゃあ今日はもう寝る、おやすみ。」

親父「待て、これは明日持っていく携帯食料だ。それと寝坊すんなよ。」

（ ・ ・ 4 ）（後書き）

（作、 ）：なんだか知らんがああ爆発で食らった傷全治3秒だった。活字って便利だな。

（編、 ）：余談だけどエピソードに出てきた謎のモンスターは上位モンスだから悪しからず。

(〃) : yll - (. . . 5) . ? ; ; (前書き)

(編) 〃) : ーしかし遅いな

(作) 〃) : お前も小説の案のメールを返さなかったじゃん

(編) 〃) : 正月で忙しかった

(作) ; 〃) : オレモナー

(〃) 〃) : 私は成人 . . . 否、成アイルーしてるから関係ない話ニヤ。

(編) 〃) : そういやプニ編集長はどこ大行ったのさ。ああ、俺らは高校生だが。

(〃) 〃) : 聞いて驚くニヤ。東大、つまり王立東シユレイド大学アイルー校、ちなみに成績トップニヤ。(空想)

(作) ; 〃) : 東大! ? あの名門の?

(編) ; 〃) : ああ、あの王立書士隊のトップ達の出身校、別名勝ち組の巣と呼ばれるあの大学か . . . 。俺らには絶対届かんわ W エリートじゃねーか W W W W

(〃) 〃) : なんなら証拠もあるニヤよ?

王立東大校出身一編集長プニ「(〃) 〃)」

(作) 〃) 〃) : そんなすごい人がこんなしょぼい小説家の編集部にいるとは . . . W W W

(編) 〃) 〃) : お前がしょぼいのは全力で肯定するがプニ編集長が東大とは . . . 。勝ち組のオーラだな。

(〃) 〃) (編) 〃) (〃)
(. . . 作)

とっつと仕事しろ!! 壁にめり込ませるぞ!!

(. .) : yll -) . . 、 5 (. ? ; ;

翌朝

ウインド「ふわぁ〜あ、今日が出発かぁ〜。楽しみだなあ。」

窓のカーテンを開けるとまだ日が出ていない。

ウインド「しまった・・・。寝坊はしなかったが興奮して早起きしすぎちゃった・・・。狩りの途中に支障が出なければいいんだがな。」

「まだ日も出ていないのでもう一度寝てみる事にした。」

ウインド「うわああああ寝過したああ!!」

親父「だからあれ程寝坊すんなって言っただろ。」

急いで装備とアイテムを整えて家を飛び出した。

おばさん「気を付けるんだよ。」

村人「頑張れよオ！」

ウインド「うん、行ってくるよ。」

親父「無理になったら帰ってくるんだ、良いな？」

ウインド「分かったよ、親父。」

(。・) (：y|| -) ・、5(・? ; ;)(後書き)

(作 ;、、) : 相手が誰だろうと冷たく接せられるな、俺。
実際にリアルでもそうです。

(編。・) : W W W W W

改) 王立書記隊じゃなくて書士だった、スマソ
ジュレイドじゃなくてシュレイドだった、首吊ってくる。

(・ ・ 6) < 五話だよww (前書き)

(作 、) : 冬休みオワタ

(編 。) : おい速く書k (作 、) つフランタソの画像 : 二

ヤリ

(編 。) : 鼻血ドウブワアアアア!!

場所が変わってここはミントの森。

ミント村から北西3キロほどの所にある至って普通の森。

モンスターが住み着く事もあったが最近は見られなかった。

そんな森にジャギイが住み着いたのでウィンドが討伐に向かわされる事になった。

広さで言えば子供では迷うが大人では迷わない程度の広さで、村人が果物等を取りに来る事がある。

余談だがこの森で子供が迷った時にはその子供の親が特有の形状をした祭壇に作物を捧げると繁殖期までには必ず帰ってくるらしい。

生息モンスター

- ・ アプトノス
- ・ オルタロス
- ・ ブナハブラ
- ・ ブルファンゴ

現在来襲中

ジャギイ

???

クエスト内容

ジャギイの群れを壊滅

契約金 0z

報酬 2000z

依頼主 親父

「うまく討伐してきたらハンターになるのを許してやる。報酬の方は街に行く為の資金だ、ありがたく貰っつけ。」

ウィンドを乗せたアプトノスに牽かれた馬車ならぬアプトノス車が森の前で止まった。

いつもの野菜配達用の予備である。至ってシンプルなデザイン。

普通の森とは言え、今はモンスターも生息しているし、外から見たら狭そうでも案外中は

広い。ウィンドは入り口で初めて入る森を眺めた。

ウィンド「うわ、思ったより広いんだな。」

アイルー「それじゃあ代金は頂いていますのでお先に失礼しますニヤー。」

討伐に成功したら緑、失敗なら赤の発煙筒を使ってくださいニヤ。

それと別のモンスターに乱入された時は蒼い発煙筒を使ってくださいニヤ。

どれを使ってもすぐに我々が飛んできますニヤー。」

ウィンドに三つの発煙筒と火打石を渡してアイルー達は去っていった。

森の中に入ると急に薄暗くなった。風で木がサワサワ音を立てている。

ここから先はモンスターの縄張り、気を付けて進まなければならぬ。

しばらく森の奥へ進むとジャギイ3頭に出会った。辺りを徘徊しており、どうやら見張りの様だ。

ウィンド「よし、いっちょ腕試しとすつか！」

ウィンドは【無銘】を抜き最初の一匹に飛びかかった。

一匹のジャギイの胸を思い切り貫く。

一匹目はこちらに気づく前に、血を吹き出しながら倒れた。

死んだのを確認してもう二匹を睨みつける。

異変に気付いた見張り達は大きな声をあげる。

そんな事もお構いなしにウインドは二匹に斬りかかる。

まず二匹目の頭を盾で思いつきり殴る。

二匹目は頭蓋が割れ動けなくなった。

三匹目が鋭い爪でウインドに襲いかかる。

ウインド「おっと！」

ウインドは盾で受け止め、右に大きく腕を振った。

爪を弾かれひるんだ三匹目に、剣を振り下ろす。

三匹目もすぐに息絶えた。

はぎ取りナイフを取り出してジャギイから素材を剥ぎ取る。

親父に貰った本に書いてあったが、剥ぎ取りは皮一枚程度にして置くのがベストだと言う。

モンスターの死体は土に還り、豊かになった土に草が生え、その草を食べる草食モンスターが、またそれを喰う肉食モンスターが繁殖していく。

その流れを壊さないためにも、ハンターは必要以上に剥ぎ取る事は禁じられている。

世の中にはその限られた数の中でも重要な素材を剥ぎ取る技術を持つ者もいると言う。

二頭剥ぎ取り、三頭目に向かったところで、何かの吠える声が聞こえた。

・ ・ 6 (< 五話だよ W W) (後書き)

(作) ・ ・ () つティッシュ : まさかこんなに効くとは
(編) ・ ・ () : フラントソウルフ

(〃 〃 〃) セブーンセブーンセブーン セブンッセブンッセブンッセブンッ!! (前

(メ 皿) A : いたぞー!

(メ 皿) B : バラバラにしてやる!

(メ 皿) C : 男は拡散弾 D A Z E

(作 ; ; ;) : ウギャアアアアアアアアアアアアア!

(編 。 。) : モタモタすんなよ、一緒にぶっ飛ばすぞ!?

(作 ; ; ;) : ちょ W W おま W W W まだ俺いるよ W W W W

(編 。 。) : フルバースト!

ドオオオオオオオオオオオオオ!

(メ 皿) A : 何しやがる!

(メ 皿) B : 許さねえゾ

(メ 皿) C : 拡散弾かわいいよ拡散弾

(作 ' ') : どうなってんだ W W

(編 。 。) : (あ . . . 。 作者半分ぶっ飛んじまった W W) 上手に避けるなこのギャングは。次は耐えられるかな?

(メ 皿) A ・ B ・ C : それはこっちのセリフだ。我々の超絶三段撃ちを食らうがいい (笑)

(作 ' ') : その前に俺を何とかしろよ何とか

(編 。 。) : まあ黙って逃げようぜ。俺のガンスならともかく片手剣で頭半分吹っ飛んだお前は使い物にならない。

(作 ' ') : 仕方がない、ここは秘密道具で何とかするか。

(編 。 。) : んなもんあるのか W W

作者と編集はなぜ追われているのか?

そして作者の秘密道具とは?

続きは小説の後

(。。(セブーンセブーンセブーン セブンッセブンッセブンッ!!!

????「アオオオオオオオオ!!!」

声に伴ってどこからともなく、15匹程度のジャギイが現れた。

ウインド「い、一体何なんだ?」

ウインドはじりじりとジャギイ達に追い詰められていく。

最早退路は無い。しかしジャギイ達は攻撃してこない。

後ろをちらちら振り返り、まるで何者かの指示を待っているかの様な気がした。

その時、あの声と同じ声が聞こえた。

????「オオオオオオ!!!」

やはり声と同時に、ジャギイ達がウインドに飛び掛かる。

ウインドは盾を構えても後ろが空きだった。

盾を構えている方の攻撃は防ぎきったが、後ろのジャギイの体当たりを受けて5m程吹っ飛ばされた。片手を突き、何とか立ち上がる。こんな形とは言え、ジャギイの包囲網から抜け出す事が出来た。二匹のジャギイが攻撃を仕掛けてくる。

ウインドは前転をして二匹の間に入り込み、右のジャギイの頭蓋を思いつきり殴り、左のジャギイの脇腹に【無銘】の刃を突き刺した。残りのジャギイは少し怯んだが、今度は数で押すつもりなのか全員で襲いかかる。

ウインド「うおっ、やべっ!」

急いで辺りの藪に転がりこんだ。ジャギイ達はウインドを見つけてよと藪の中を探し始めた。

何か役に立つ物は無いかとアイテムポーチの中を探してみる。

ウインド「音爆弾か……。」

これも本に載っていたが、投げると衝撃で高周波を発生させ、モンスターを惹いたり耳が敏感なモンスターなら一時的なショックを起こす。

ジャギイ達には効くかどうか良く分からないが、気を引く事は出来そうだ。

「ウィンド「大タル爆弾って、なんでこんな危ない物が家にあるんだ。」
大タル爆弾は大きなタルの中に火薬を充満させて爆発を起こす道具。組み立て式で樽を組み立てるとその中に専用の道具で爆薬等を充満させ、内部で粉じん爆発を起こさせる。

中が粉のせいなのかある程度の衝撃で爆発するようになっていた。ウィンドはこの二つを見てある考えを思いついた。

「ウィンド「よし、やってやつぞ！」
心の中でそう呟きながら、大タル爆弾を組み立て、爆薬を充満させた。

「ウィンドは少し後ろに下がって、大タル爆弾の辺りに音爆弾を転がした。

すると大タル爆弾の周りに高周波が響く。
音を聞きつけたジャギイ達が大タル爆弾の周りに集まり、なんだこれは？とも言いたげな顔つきで爆弾の臭いをかいでいる。

藪の影から全部のジャギイが集まるのを確認したウィンドは、手元の石ころを爆弾に投げつけた。

「辺りに爆音が響き、ジャギイ達が吹っ飛ばされるのが見えた。
ウィンド「やった！！」

「以外に爆発の範囲は広く、13匹全部仕留める事が出来た。
喜びに溢れながら焼け焦げた地面を見ていた時、ウィンドの前に大きな影が迫っていた。

「影に気付き、上を見ると、ウィンド目に普通のジャギイよりも数倍の大きさの群れのリーダー、ドスジャギイの姿が映った。

(〃 〃 〃) セブーンセブーンセブーン セブンッセブンッセブンッ!! (後

(編 〃 〃) : そんな事より俺彼女出来たんだ (本当です。最近彼女出来たみたいです。リア充爆発しろWWW)

(作 〃 〃 〃) 「 : : 」 秘密道具 : それ死亡フラグWWW

(メ 皿) A ・ B ・ C : 三段撃ちー!

(作 〃 〃 〃) 「 : : 」 : うわー、なんか狙って来てる

(編 〃 〃 〃) : プランBだ、お前が困になっている間に俺がフルバーストを決める!

(作 〃 〃 〃) 「 : : 」 : Aと同じだろWWWまた避けられるぞWWW

回想

(〃 〃 〃 〃 〃) : 貴様らアアア!! 投稿遅れやがってエエエ!! 一度抹殺してやる!

(作 〃 〃 〃) : (アイルーの顔のハズがすごい形相だ)

(編 〃 〃 〃) : 俺はそう簡単にはタヒなないぜ?

(〃 〃 〃 〃 〃) : タヒなくて結構、私のかわいいしもべ達が手前らをすぐに地獄に葬ってくれよう。

(作 〃 〃 〃) 「 : : 」 「 : : 」 (ニコニコ動画なんか見てる暇にとつと書いときゃ良かった)

(編 〃 〃 〃) : 受けて立つぜ、ヘルバースト!

ヘルバーストとはフルバーストと撃竜砲を同時に撃つ代わりに一時的に砲撃が不可能になる最終必殺 (厨二) 技である!

(編) < キュイーン (作) ガチャチャ < (A) (B)

C)

(作 〃 〃 〃) 「 : : 」 「 : : 」 : 俺間に居るんだけどWWWねえ聞いてる? W

W
W
W

(メ 皿) A・B・C：問答無用！邪魔する奴は八子の巣だぜ！
！散弾セツト！

(編。)。)：全部ぶつ壊す！

(作；)「；」：八子の巣になるのもぶつ壊れるのも俺だけだ
つて！ちよつと待て

ドドオオオオオオオン！！

ダダダダダダダダダダダ

「：作、；」：機械化シナカッタラ即死ダダ

(編；)。)：ある意味もう死んでるww

(。)。)：今後はもう投稿を忘れない様に。

(〃 、 8頭身って素敵だよな) (前書き)

(編 。 。) : だりーな

(〃 。 。 。) : そう言えばお前も小説書いてたな。とつとと原稿をよこすニヤ。(本当に書いてます、全然うpしてませんがww東方とMHを混ぜた奴だった希ガス)

(編 。 。) : だが断る

(〃 。 。 。) : ならば私直々に断罪してくれよう

(編 。 。) : それも断る

(作 、 、) : また始まったw

(作 、 、) : 今日もニコ生でも見ながら仕事するか。

(、 8頭身って素敵だよな)

ドスジャギイに見つかった。

ドスジャギイは通常のジャギイの数倍の大きさ、その上攻撃力、体力ともに通常のジャギイと比べれば比べ物にならない。

しかもドスジャギイの咆哮は奴の配下を呼び寄せる。

恐らく先ほどの咆哮もウインドを取り囲み殺すために呼んだ兵士だろう。

ウインド「ドスジャギイ!？」

ウインドも奴がどれ位の敵かは理解していた。

だが彼はここで大型モンスターに遭遇するなど思ってもいなかった。ドスジャギイは息を荒げグルルと唸っている。

どうやら自分の精鋭部隊を全滅させられてご立腹の様だ。

ウインド「やべっ、怒ってんのか？」

ドスジャギイが急に爪を振り翳した。

ウインドは前転をして先程のジャギイと同じ様に潜り込み、

ドスジャギイ「ギャ!？」

一気に下からドスジャギイを貫く・・・つもりだったが片手剣の刀身の短さが災いし、巨体のドスジャギイには大した傷を与える事無く脱出を余儀なくされた。

ウインド「げ。」

ドスジャギイの爪の下にはかなり深い爪跡がある。

ウインド「あんなもんに当たったら死んじまうな・・・。」

そのまま立ち上がり先程の斬られたショックから立ち直ったドスジャギイと対峙する。

ウインド「先手必勝!！」

ウインドは大きくジャンプし、飛び掛かるように剣を振り下ろす。

バリバリッと言う音がしてドスジャギイの大きなエリマキがちぎれて地面に落ちた。

だがそれほどダメージは無さそうだ。

ドスジャギィ「ギャー！」

ドスジャギィは再び襲いかかってきた。

ウインド「今度こそ！」

今度は頭を盾で思い切り殴り、めまいを起こしている隙に腹にジャンプ切りを決めた。

ドスジャギィ「グギャー!？」

そのままドスジャギィはまだめまいから回復せずふらふらと倒れようとしていたが、ウインドは容赦なく足元に連続で斬りかかった。

ドスジャギィ「ギャツ!!！」

ドスジャギィは耐えきれずに倒れた。

ウインド「止めだ！」

ウインドは横たわるドスジャギィの喉を掻き切るうとした、その時ドスジャギィ「グギャー!!！」

何とドスジャギィが渾身の力を込めて暴れ始めた。

ウインド「うわっ!!！」

ドスジャギィの鉤爪が鈍い音をしながらウインドに迫ってくる。

ウインド「糞ッ！」

必死に右手を前にしてガードを試みた。

しかしドスジャギィはあまりにも必死で、それに対してウインドはあまりにも経験不足だった。

ガードは間に合った物の構えが甘く衝撃が右腕に走る。

ウインド「ッ!!！」

ドスジャギィ「ギャー！」

ドスジャギィが体制を立て直して襲いかかってくる。

ウインド「うおおおおおおお!!！」

ウインドは渾身の力で体を大きく回転させ、ドスジャギィの腹を斬った。

ドスジャギィは大きくのけぞった。

そしてドスジャギィのがら空きになった喉に【無銘】を深く突き刺

した。

ドスジャギィ「ギヤア・・・ア・・・。」

喉の神経と動脈を同時に貫かれたドスジャギィは息だえていった。

(、、8頭身って素敵だよな)(後書き)

(????????????????????)俺を右クリックして流
行らせる！

どうも作者です。今回は二人がいないのでキャラ紹介でもしていこ
うと思います。

何で顔文字がないのかって？俺以外ないんだから判別の必要がな
いんです。一々変換するのは名前打ち込むのと同じ位疲れますw(

おい)

実はコレ投稿するのに一晩経ってます。時間がwwww

おつと話が逸れてしまいましたね。

キャラ設定どぞー。

・ウインド・イクシード

年齢15歳 ハンター/使用武器片手剣

体格 普通

髪 薄い緑で少しぼさぼさ

一人称 俺

通称 ウインド

出身 ミント村

人間関係 グレイの息子 村人とは仲がいい

・グレイ・イクシード

年齢42歳 運び屋

体格 大

髪 スキンヘッド

一人称 俺

通称 親父

出身 ミント村

人間関係 ウィンドの父親 村人とは仲がいい

・おばさん

年齢 45歳 農民

体格 大 小太り

髪 黒い髪を後ろに束ねている

一人称 私

通称 おばさん

出身 ミント村

人間関係 村人とは仲がいい

・作者

年齢 14 学生

体格 普通

髪 黒髪がぼさぼさor短く

一人称 俺

通称 (作、)

出身 見せられないよ!

人間関係 あらゆる人間に服従

・編集の人

年齢 17、18 学生

体格 普通

髪 知らん

一人称 俺

通称 (編、)

出身 見せられないよ!

人間関係 あらゆる人間を支配

・プニ

年齢??？ 編集長

体格 アイルー

髪 白

一人称 私

出身 シュレイド西部

人間関係 あらゆるアイルーの頂点

／ ∴ 3 9 ∴ (昔三の倍数でアホになる芸人いたけど今どうしてるのか)

あらすじ

ウィンド君はドスジャギイを倒したぞ！

(編 ∴ (は) ∴ (に暗殺されたぞ！

ウインド「フウ・・・。」

ウインドは辺りを見回したがジャギイの気配はない。恐らくさっきの爆弾で全滅したんだろう。

ウインド「そう言えば」

クエスト成功時に使うのろしを出した。ウインドはのろしに火打石で火を付けた。

この火打石は特殊な鉱石が使われていて、あまり慣れなくても火を起こせるようになってる。蒼い煙が空に昇って行った。

アイルー「お疲れだにや。初めての大型モンスター討伐おめでとくだにや。旦那の壊したエリマキはこっちで報酬として渡させて貰うニヤ。もちろん旦那の今持っているエリマキの方はそのまま持つていて貰っても結構だニヤ。ただ荷物の邪魔になるならこっちで預からして貰うにやよ？」

ウインド「え」と・・・じゃあ預かって貰うよ。」

アイルーとは言え何か旦那と呼ばれるのは恥ずかしい様な気がした。親父と出かけても旦那と呼ばれるのは親父の方で、ウインドの方はいつも坊やと呼ばれて、お手伝いのご褒美にアイルーからマタタビを貰ったびに困った顔をして親父に笑われたものだ。

ウインド「親父・・・か。」

ハンターになつたらやはり遠い町に行かなければならない。親父にも会えなくなるだろうなと思うと少しさみしくなった。

やがてアプトノスに牽かれた車に乗って村に戻ってきたウインドは村人からの歓迎を受けた。

おばさん「お帰り！良くやったね！」

親父「まさか本当に倒してくるたあな。少しは見なおした。」

村人A「話は聞いたぜ！ドスジャギイ討伐したんだってな！」

村人B「お手柄だな。今夜はパツと行こうぜ。」

一人の村人に右手を引っ張られた時激痛が走った。

ウインド「ッ！」

親父「おい、どうした？つておい、腕折れてるぞ！」

ウインド「いてえ！親父腕掴むな！！！」

／： 3 9 。 (昔三の倍数でアホになる芸人いたけど今どうしてるのか)

(編) 「：。」：悪いが(笑)少しパクった

(作) 、()：うわー、反省してないのがセリフに出てるよコイツ・
・。しかしこのコーナーもやる事無くなってきたな。予告編とかやるの面倒だし・・。

(編) 「：。」：そうだな、もうめんどくさいよな。やる気無いよな。だから小説もう書かないよな。

(作) 、()：こんなハンパな所で終わってたまるかww

／： 3 。 (よしこれで10行稼いだ・・)

10って丁度いい回だね。でも何もしない。(前書き)

(作、) : テストとかマジないわー

(編、) : ないわー(笑)

今度から一週間に一回ベースでうpしようかな・・・

10つて丁度いい回だね。でも何もしない。

ウエーブ「打撲ですね。一応ギブスを付けときますか」
ウエーブ・ストロンゲ

ミント村の医者。古くからこの村に滞在しており、癌等の不治の病以外はきっちり治してくれる。生真面目なのが玉に傷。

ウエーブ「とりあえずこの湿布を処方しておきます。」

親父「おお、ありがとな。ほれ、お前も礼言つとけよ。」

ウインド「ありがとうございました。」

ウエーブ「ああ、そうそう。打撲の原因についてなんですけど。ちよっと息子さんの装備を持ってきてください。」

盾の裏側の真ん中あたりを突つつく。

ウエーブ「この盾の中ですよ。」

親父&ウインド「中？」

ウエーブ「はい、普通ならここにクッションがついてるんですけどね。長い間手入れしなかつたせいで中のクッションがほとんど腐ってしまっています。とは言っても普通に見ても盾の中に組み込んであるし普通は武器屋に渡してクッションを入れ直すので知らなくても仕方がないでしょう。」

親父「そう言えばお前の兄貴は鍛冶屋だったな。」

ウエーブ「はい、バストルの街で主に武器を鍛えてますよ。良かったらそこで直して貰って来てください。性格は悪いですけど腕はいいですよ。」

それから大人二人が小声で話をしました。

親父「懐かしいな。あの時以来会ってないな。」

ウエーブ「ええ、鍛冶場も何もかも壊されて毒まみれでしたからね。

・。街へ行かないと仕事がなかったですからね。兄にとって鍛冶屋以外に仕事も楽しみも無かったですから。

そう言えば向こうの街に住居はあるんですか？」

親父「あ……やべ……。」

ウエーブ「全く、貴方も変わらないですね。」

ウエーブは苦笑してチラとウィンドの方に目をやった。

ウエーブ「あの子位なら兄も留めてくれるでしょう。兄の鍛冶場に
住ませてみてはどうですか？」

親父「いつもすまないな。ご厚意受けさせて貰うぜ。」

ウエーブ「それじゃあ手紙に書いて送っておきます。所で宴会には
もう行かなくて良いんですか？」

親父「おお、そうだったそうだった忘れてたぜ。」

ウエーブ「やれやれ、こんなのだとウィンド君も向こうに行ったら
苦労しそうですね……。」

10 行って丁度いい回だね。でも何もしない。(後書き)

/::3。(暇だな)

11話(前書き)

あれ？前の週に投稿したはずなのに出てない。

11話

宴は真夜中まで行われた。もう20年位はこの村からハンターは出ていない。それだけに今回のハンター誕生は長い間平穏な暮らしをしてきた村人たちにとってはかなり刺激的なものだった。

ウインドは恐らくこの宴の事は一生忘れないだろう。とは言っても打撲のせいで宴の御馳走と成人の酒にはありつけなかったのだが・

次の日、ウインドは荷車に乗って村を出発した。出発の前に村人達から貰った贈り物とハンター用品がかなりの多さだったので荷車を使うついでにその荷車に乗っているのだ。今は森の中の道を猛スピードで走り抜けている。

ウインドは馬車の先頭にいるアイルーに声をかけた。

ウインド「おい、後どれ位で着くのー？」

アイルー「明日のお昼前には着きますニャー。」

ウインド「野宿するのー？」

アイルー「ニャー。そうですねニャー。もう日もくれそうだからテントを張りますニャー。」

でもこんなモンスターのいそうな森で泊まるのはなんだか不気味・

・

ウインド「え？最後なんか言った？」

アイルー「い、いや、なんも無いですニャー。」

その日は森の少し開けている所に荷車をおき、その周りにキャンブを張る事になった。荷車を轆いていたアプトノスの前で薪を焚いて毛布を被り眠りについた。

ウインドは中々寝つけず周りのアイルーとアプトノスを起こさない

ようにそつとキャンプの横の木の根元まで歩いて行った。

ウィンド「明日はついに街に行けるんだなー。一体どんな所なんだろうか。」

夜空に向かつて一人呟いた。

その時空に大きな影が横切った。

ウィンド「!?!」

ウィンドは咄嗟に身構えた。大きな影は此方の存在に気がついたらしく空を大きく旋回しながらキャンプの周りを回った。が、何もなかったの様に山の方に行くと山の頂上辺りをぐるぐると回った後山の中に消えていった。幸いここはあの大きな影の主の縄張りには入っていないかったらしい。

心配になってしまったウィンドはキャンプの周りをしばらく見張る事にしたが、結局睡魔には勝てずキャンプに戻って眠ってしまった。

11話(後書き)

(作) ……、 () ……くそつたねー……！
(編) …… () ……ベジータの死亡フラグですね、分かります。

＼（12^o^）／（前書き）

（作、）（）…もうネタがつきそうだ……。おや、この空気を
はなんだろう。

プシュー

（作…）（）…うわー

下に続く

次の日

アイルー「旦那さん起きるニヤー！出発ニヤー！」

ウインド「うん、もうちょっと寝かせて……。」

アイルー「何言ってるニヤー！今から出発しないと街の門が閉まっちゃうニヤー！」

昨日はまた遅くまで起きていたせいで寝坊してしまっただが、幸い装備を装着したままで眠っていたので着替える手間が省けた。これから行く街がどんな街なのだろうか、どんな人がいるのだろうかと期待と不安を抱えつつ出発した。

アイルー「旦那さん、到着したニヤー！」

ウインド「ありがとう、代金を払うよ。」

アイルー「お金ならもう先に親父さんから貰ったから大丈夫ですニヤー！」

アイルー「親父さんから預かったこの地図を見て下さいニヤ。宿泊先が書いてありますニヤー。後はは通行許可証ニヤ。門に入る時に使つて下さいニヤ。ちなみにはは何度でも使える優れ物ニヤよ。ではそろそろ次の旦那さんの所に急がねばニヤー。次に会う機会があったら宜しくニヤー！」

荷車から下りてみると目の前に大きな壁が聳え立っていた。

ウインド「あれ？ここからは入れないのか」

すると壁についている櫓から人が降りてきた。

門番「おーい！その人！」

ウィンド「え？俺？」

門番「お前以外にはもう誰もいないよ。さあ、通行許可証を見せて貰おう。」

ウィンド「あ、えーと、はい。」

門番「えーと、ミント村出身ウィンド・イクシード・・・見かけない顔だと思ったらあんな遠くの辺境から来たのか。次は荷物点検だぜ。最近は物騒だからな、爆弾や変な薬を持ち込み様な奴が増えて困るんだよな。まあ爆弾の所持はハンターには許されてるけどな。」

そう言っているとウィンドの荷物を調べ始めた。

門番「あれ、さっそく大タル爆弾なんか持ち込んでやって、お前ハンターなのか？」

ウィンド「まだ正式にはなっていないけど。」

門番「なんだ、まだなっていないのか。ならこの爆弾は没収しないと。おっと心配するなよ。没収と言っても一時預かるだけだからな。ハンターになってから取りに戻れば良い。まあお前は見た感じ悪い奴じゃなさそうだな。」

ようこそ！バストルの街へ。ゆっくり楽しんでけよ！」

＼(12^o^)/ (後書き)

(編。)。) : 奴はついに“ネタ缶”に手を出してしまった・・・。

(。。。) : なんぞそれ

(編。。。) : ネタ缶とは奴の厨二病のウィルスを活性化させネタを増幅させる代わりに現実世界と隔離してしまう恐ろしい兵器だ。ちなみにこれは奴の脳内設定だ。

(。。。) : そんなもんあったのかよ

(作。。。) : いやっほおおおおおおおおう!! ネタを手に入れた俺に敵はいねええええええええええええええええ!!

(編。。。) : ちなみにネタがわいたように錯覚するだけだからあんま期待できないよー。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5322p/>

MONSTER HUNTER ~風の章~

2011年10月8日14時07分発行